

緩和ケア室

(スタッフ)

室長：呼吸器外科部長、専従看護師：がん性疼痛看護認定看護師、事務員、計3名

(実施状況)

緩和ケア室は、がん対策推進基本計画に基づき、緩和ケアの推進を目的に活動を行っている。また、がん診療連携拠点病院としての役割を果たすために、緩和ケアの質の向上に向けて、緩和ケアの実践と緩和ケア提供体制の整備、緩和ケア啓発活動に取り組んでいる。

1. 緩和ケア提供体制の整備

緩和ケア外来は2009年8月より開設し、2010年は2件行った。緩和ケア外来とは別に、外来看護師と連携をはかり、がん性疼痛や家族の不安などについて15件対応した。

緩和ケアマニュアルは、発行に向けて準備を行っている。

2. 緩和ケアチームでの緩和ケアの提供

患者・家族への直接的・間接的な緩和ケアの提供は、緩和ケアチームメンバーと各病棟や外来の多職種と連携して行った。緩和ケアチーム新規依頼件数は47件で、前年より50件減少した。これは、大分県緩和ケア研修会へ参加した医師が増えたため、主治医が疼痛緩和や全身倦怠感などの基本的な薬物療法ができるようになったことや、リンパ浮腫の対応が3月以降はできなかった影響と考えられる。

3. 緩和ケアに関する相談業務

専従看護師が、病棟や外来と連携して相談業務や指導、カンファレンス参加を行っている。相談件数は、38件であり、そのうち3件は緩和ケアチーム介入につながった。カンファレンス参加は7件であり、デスカンファレンスでケアの振り返りや、ケアの方向性について協議した。

4. がん患者カウンセリング料の算定

緩和ケア外来で、がん患者とその家族に対して、緩和ケア室室長と専従看護師が疼痛緩和や今後の療養場所の選択について説明を行い、1件算定を行った。

5. 医療者への研修会の開催

1) 医師対象の緩和ケア研修会の開催

6月5日、6日の2日間に実施した。院内と院外より20名の参加があった。

2) 緩和ケアを考える会の開催

2ヶ月に1回開催し、1月と5月以外は院外広報も行い、平均53名の参加があった。

月	内容
1月	講演会：人間は関係存在である 事例検討：自尊心を尊重するためには、どのように本人に関わればよかったのか
3月	講演会：がん患者の不眠・不穏・せん妄への対応
5月	事例検討：多発性骨髄腫による痛みを持つ患者の、在宅調整へのアプローチ方法の検討
7月	講演会：緩和ケアにおける精神科医の役割
9月	事例検討：がん告知における医療者の役割を考える
11月	講演会：がん性疼痛のマネジメント

6. 緩和ケア啓発活動の実施

ホスピス・緩和ケア週間にあわせて、一般市民と医療者を対象に10月にがんサロンと講演会を開催した。一般市民36名、医療者30名の、計66名の参加があった。講演会后に、入院中の患者家族から、緩和ケアチームに介入依頼が1件あった。

「緩和ケア便り」を緩和ケアリンクナースと共同で2回発行し、院内で行っている緩和ケア活動の報告と、緩和ケアリンクナースの活動紹介を行った。

(今後の方向性)

1. 緩和ケア外来、緩和ケアチーム新規介入依頼の増加

- 1) 診療科、緩和ケアリンクナースとの連携
- 2) 「緩和ケア便り」を活用し、緩和ケアの知識の普及や、緩和ケア外来など院内での取り組みの広報

2. 緩和ケア啓発活動の継続

- 1) 緩和ケアマニュアルの発行
- 2) 緩和ケア週間、緩和ケアを考える会の継続
(文責：赤嶺晋治、川野京子)